

1. 実況上の着目点

① 沿海州には500hPa5280m付近の-36℃以下の寒気を伴う寒冷渦があって、南東進。また、北日本付近には低気圧があって、東北東進。日本の東には高気圧があって、東南東に移動。高気圧後面の下層暖湿気が流入し、西～北日本の太平洋側海上では、雷を多数検知し、局地的に1時間30mm以上の激しい雨を解析。

② 500hPa5760m付近のトラフに対応し、南西諸島付近には低気圧があって東北東進。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、南西諸島では海上を中心に局地的に1時間に50mm以上の非常に激しい雨を解析。

③ ①及び②の低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなっており、北日本と南西諸島ではやや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の寒冷渦は南東進し、25日は北日本付近、26日は日本の東へ進む。500hPaで北日本には-36℃以下、東日本には-30℃以下の寒気が流入する。また、1項①の高気圧は24日は日本の東を東に移動し、西～北日本には25日にかけて、高気圧後面の下層暖湿気が流入する。さらに、1項②の低気圧は、対応するトラフが先行するため24日朝までに不明瞭になるが、24日は南西諸島には850hPa318K以上の下層暖湿気が流入する。上空寒気及び下層暖湿気の影響で、全国的に大気の状態が非常に不安定となる。南西諸島と西日本では24日は、東～北日本では26日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項①の低気圧は、24日夜には根室の南付近に進み、25日朝までに不明瞭になる。また、500hPa5580m付近の強風軸に対応して、25日朝までに前線が伊豆諸島～日本の東で顕在化する。2項①の寒冷渦の周りのトラフに対応し、25日夜までに前線上の日本の東で低気圧が発生し、26日にかけて発達しながら北上する。中国東北区から張り出す高気圧とこれらの低気圧との間、また1項②の低気圧周辺では、気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、波が高くなる所がある。南西諸島では26日にかけて、西～北日本では25～26日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。

③ 波浪(明日まで)：北～西日本、南西諸島の広い範囲で3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図